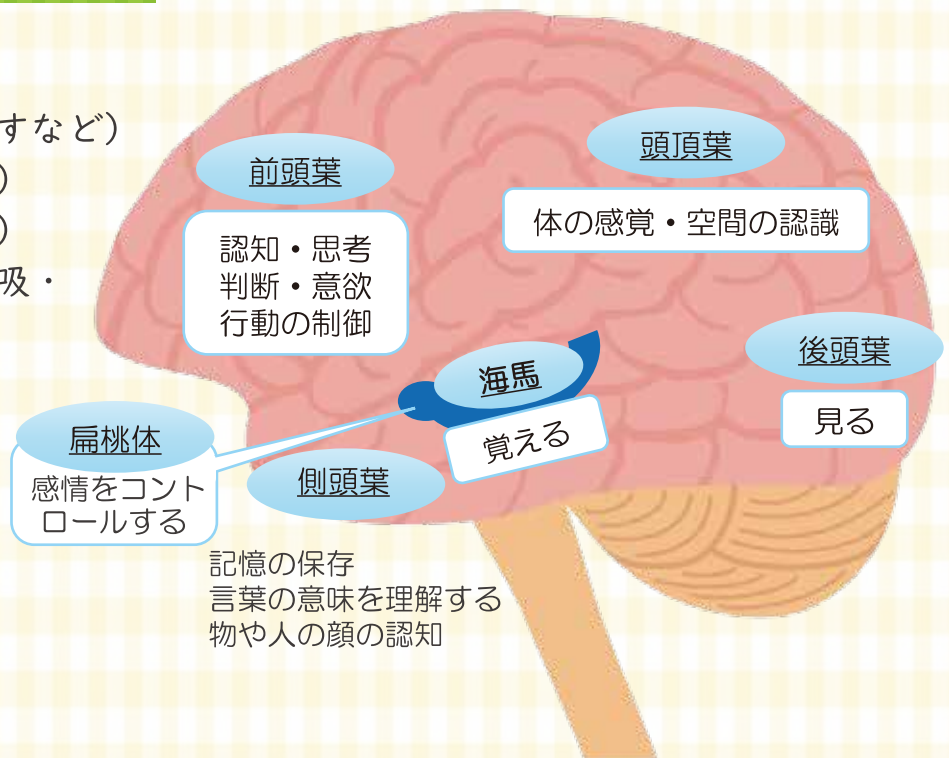


3. 脳のはたらき

脳は、

- 記憶（覚える・思い出すなど）
- 感覚（見る・聞くなど）
- 思考（理解・判断など）
- からだ全体の調節（呼吸・睡眠・体温など）

といった、生きていくために必要なほとんどののはたらきをコントロールしています。



出典：認知症サポーター養成講座標準教材（旧版）/ 全国キャラバン・メイト連絡協議会

4. 主な認知症の種類と症状

認知症は、認知機能低下によってもたらされる生活障害が起こる病気の総称で、様々な種類があります。それぞれに原因や症状が異なり、治療により治癒したり、症状が改善したりするものもあります。

アルツハイマー型認知症

異常なタンパク質が脳の神経細胞に蓄積して神経細胞を破壊し、脳が萎縮することで発症します。親しい人を忘れるなどの記憶障害や、ここがどこか、今いつなのかわからない見当識障害などの症状が起こります。



レビー小体型認知症

レビー小体という異常なタンパクが大脳皮質や脳幹に蓄積しやすく、神経細胞を破壊することで、神経をうまく伝えられず発症します。「（いるはずのない）子供が家の中にいる」などのはっきりした幻視やパーキンソン病のような症状が出ます。



脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血などで血管がつまったり出血することにより、脳の細胞に酸素が送られなくなり神経細胞が死んでしまうことで発症します。もの忘れなどがあったとしても判断力の低下はみられないなど、症状がまだらに現れます。



前頭側頭型認知症

前頭葉と側頭葉の萎縮により発症します。特徴として、人格が変わる、反社会的行動（万引き、無銭飲食など）をおこすなどの症状があります。記憶障害は目立ちません。



※その他

正常圧水頭症、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、甲状腺疾患などは治療可能です。多量のアルコールを飲むことで認知症を発症することもあります（アルコール性認知症）。

出典：公益社団法人 認知症の人と家族の会